

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	佐賀野 健				
到達目標					
1. 自分の体カレベルを把握できる。 2. ゴルフを行う上でのエチケットやマナーを理解できる。 3. ピッチングの基本的な打ち方ができる。 4. 方向・距離感覚を修得し、ある程度狙ったところに打つことができる。 5. バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。 6. バドミントン (ダブルス) の集団的スキルをゲームで生かすことができる。 7. バドミントンのゲームを企画・運営ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分の体カレベルを適切に把握できる		自分の体カレベルを把握できる		自分の体カレベルを把握できない
評価項目2	ゴルフの技能を生かすことが適切にできる		ゴルフの技能を生かすことができる		ゴルフの技能を生かすことができない
評価項目3	バドミントンの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。生涯にわたってスポーツを親しむという観点からゴルフ、バドミントンを学習する。基本的な個人技能を高めるとともに、効果的な練習方法、エチケットマナー、ゲームの企画や運営方法、審判法などを理解させる。				
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。				
注意点	学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・新体カテスト	1. 新体カテスト 新体カテストの説明 各種目の測定 得点集計自己評価	
		2週	新体カテスト		
		3週	集団行動・体育祭または球技大会の種目	2. 体育祭または球技大会種目 体育祭または球技大会種目の練習	
		4週	ゴルフ	3. ゴルフ コース・競技の進行・ゲームの勝敗・エチケット、マナー、クラブの種類と性能の説明、個人技能 (安全確保、グリップの握り方、スイングの体得) の修得、打球の方向性と距離感覚の修得	
		5週	ゴルフ		
		6週	ゴルフ		
		7週	ゴルフ		
		8週	ゴルフ・スキルテスト		
	2ndQ	9週	バドミントン	4. バドミントン ルール・審判方法・ゲーム方法の説明、班編成 基礎技能 (ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン、フライトサービス、サーブレシーブ) の修得 ダブルス・ゲーム	
		10週	バドミントン		
		11週	バドミントン		
		12週	バドミントン		
		13週	バドミントン		
		14週	バドミントン		
		15週	バドミントン・スキルテスト	5. 持久走 長距離走の練習	
		16週	バドミントン・スキルテスト		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	前4,前9,後1,後3
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2	前4,前9,後1,後3

			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	前4,前9,後1,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語	
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	_一般科目		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	長尾和夫『しゃべって身につく英会話スキット・トレーニング160』(三修社)					
担当教員	富村 憲貴					
到達目標						
1. テキストで扱われる英語表現を理解できること 2. 実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使えること 3. 自分の考えや感情を英語で表現できること						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	テキストで扱われる英語表現を正確に理解できる	テキストで扱われる英語表現を理解できる	テキストで扱われる英語表現を理解できない			
評価項目2	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を適切に使える	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使える	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使えない			
評価項目3	自分の考えや感情を英語で適切に表現できる	自分の考えや感情を英語で表現できる	自分の考えや感情を英語で表現できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	これまでに学習した英語の文法、語彙等をアクティベートするため、演劇等のパフォーマンス活動を通して、社会の様々な場面で英語を用いる訓練を行う。本授業は就職と進学に関連し、コミュニケーション力を高めることができる。					
授業の進め方・方法	演習を基本とする。					
注意点	授業にはテキスト・辞書を必ず持参すること。学生諸君が英語を使う時間が多く取られるので、積極的に取り組み、疑問点は遠慮無く質問するよう期待する。 【カリキュラムの中での位置づけ】 1~4学年の英語関連科目で学んだ内容および技能を基礎に、さらに英語力を伸ばすための科目。 【先行して理解する必要のある科目】 コミュニケーション英語I, II, 英語表現I, II, 英語(4年選択科目) 【同時に学ぶ科目】 なし 【ESDとの関連(教育目標)】 (ESD1) テキストの演習を通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることで、他文化の人々と協力して行動するための素養を身につける。 【評価方法と基準】 JABEE合格基準: 60%以上 前期中間試験17.5%+前期期末試験17.5%+後期中間試験17.5%+後期期末試験17.5%+小テスト30%=100%(100点) 60%以上を合格とする。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	概要説明				
	2週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動1	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現			
	3週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動2	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現			
	4週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動3	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現			
	5週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動4	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現			
	6週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動5	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現			
	7週	中間試験				
	8週	答案返却・解答説明				
		9週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動6	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
		10週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動7	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
		11週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動8	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
		12週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動9	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		

		13週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動10	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		14週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動11	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	
後期	3rdQ	1週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動12	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		2週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動13	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		3週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動14	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		4週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動15	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		5週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動16	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		6週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動17	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		7週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動18	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動19	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		10週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動20	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		11週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動21	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		12週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動22	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		13週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動23	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		14週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動24	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	2	

			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	小野寿美子『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年				
担当教員	西谷 明子				
到達目標					
1. 日常で使える会話を習得する。 2. 形容詞, 再帰動詞, 接続詞を使うことができる。 3. 動詞の三基本形を知る。 4. 辞書を使って簡単な文章を読み, 作文することができる。 5. 動詞の三基本形を使いこなす。 6. 中級文法を覚える。 7. 辞書を使って簡単な読み物を読み, 作文することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日常で使える会話を習得できる。	日常で使える会話がある程度習得できる。	日常で使える会話を習得できない。		
評価項目2	動詞, 形容詞, 再帰動詞, 接続詞を使うこと適切にできる。	動詞, 形容詞, 再帰動詞, 接続詞を使うことができる。	動詞, 形容詞, 再帰動詞, 接続詞を使うことができない。		
評価項目3	辞書を使って簡単な読み物を読み, 作文をすることが適切にできる。	辞書を使って簡単な読み物を読み, 作文をすることができる。	辞書を使って簡単な読み物を読み, 作文をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	初級ドイツ語文法と簡単な日常会話を習得する。中級への架け橋となる文法事項についても学び、簡単な読み物が読めるようになる。またドイツあるいはヨーロッパの文化や歴史についても理解を深める。				
授業の進め方・方法	教科書及び付属のCDを用いた講義。				
注意点	授業には毎回必ず辞書を持参すること。授業中でも授業後でも、質問があれば受け付けます。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	4年時の復習	話法の助動詞と分離動詞を中心に	
		2週	Lektion 7	レストランで食事・支払い	
		3週	Lektion 7	形容詞・副詞の比較、読み物	
		4週	Lektion 8	週末の外出・過去の事柄	
		5週	Lektion 8	動詞の三基本形・現在完了形	
		6週	Lektion 8	現在完了形の練習、読み物	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	Lektion 9	ヴァイマルで・過去の所在	
		10週	Lektion 9	過去形	
		11週	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞	
		12週	Lektion 9	読み物	
		13週	Lektion 9	読み物	
		14週	Lektion 9	練習問題	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	前期の復習	動詞の三基本形を中心に	
		2週	Lektion 10	冬休みに・予定の言い方	
		3週	Lektion 10	zu不定詞	
		4週	Lektion 10	関係代名詞	
		5週	Lektion 10	関係代名詞	
		6週	Lektion 10	読み物	
		7週	Lektion 10	練習問題	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明		
		10週	その他の文法補足	受動態	
		11週	その他の文法補足	状態受動	
		12週	読み物	簡単な読み物を読み, ドイツ語への理解を深める	
		13週	読み物	簡単な読み物を読み, ドイツ語への理解を深める	
		14週	読み物	簡単な読み物を読み, ドイツ語への理解を深める	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前2

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	中国語
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	李志華・文南 著『友子の北京ライフ』 白帝社				
担当教員	范叔如, 劉鳴				
到達目標					
<p>1. 4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げます。</p> <p>2. 中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解を深めます。</p> <p>3. 練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めます。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることが適切にできる		4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることができる		4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることができない
評価項目2	中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解を深めることができる		中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解ができる		中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解できない
評価項目3	練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることが適切にできる		練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができる		練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、基礎となる中国語の文法・会話表現を復習しながら、より高度な表現を習得することで、ある程度の実力をつけることを目標とします。				
授業の進め方・方法	発音方法、文型模倣練習法、模倣記憶返復法などを必要に合わせて応用する。				
注意点	試験前にまとめて勉強するのではなく、普段の授業を大切に、しっかり知識の基盤を築くことを期待する。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第9課		月、日、曜日の言い方、名詞述語文
		2週	第9課		経験を表す“過”
		3週	第9課		動作の状態の程度を表す“得”と“是～的”
		4週	第9課		「聞く、書く、話す」と本文
		5週	第10課		時を表す語②と“快～了”
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第10課		動詞の重ね型と持続を表す
	2ndQ	9週	第10課		「聞く、書く、話す」と本文
		10週	第11課		助動詞“会”、“能”、“可以”
		11週	第11課		2つ目的語をもつ動詞
		12週	第11課		結果補語
		13週	第11課		「聞く、書く、話す」と本文
		14週	復習		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	第12課		可能補語“得”
		2週	第12課		方向補語／助動詞“得”
		3週	第12課		動詞(句)を目的語にとる動詞
		4週	第12課		「聞く、書く、話す」と本文
		5週	第13課		量詞／比較の表現“比”
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第13課		離合動詞／副詞“又～又～”
	4thQ	9週	第13課		「聞く、書く、話す」と本文
		10週	第14課		“了”1+“了”2構文
		11週	第14課		使役文
		12週	第14課		受身文型
		13週	第14課		「聞く、書く、話す」と本文 時刻などの表現
		14週	復習		
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ハングル
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	_一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	朴大王・李賛任(共著)『韓国語入門』白帝社、木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座(初級)改訂版』国書刊行会				
担当教員	李 政樹				
到達目標					
1. 動詞・形容詞等の活用ができる。 2. 簡単な作文ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	動詞・形容詞等の活用が適切にできる		動詞・形容詞等の活用ができる		動詞・形容詞等の活用ができない
評価項目2	簡単な作文が適切にできる		簡単な作文ができる		簡単な作文ができない
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年間学習した者を対象にする。2年間の学習でハングル能力検定試験5級の合格程度の力をつける。				
授業の進め方・方法	講義を基本とする				
注意点	欠席の場合は後日の授業に多大な支障が生じるため、欠席は絶対にしないこと。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課～第3課の復習、第11課 いくらですか		ポイント1 変則
		2週	第4課・第5課の復習、第11課 いくらですか		ポイント2 漢数詞、活用練習、応用表現
		3週	第6課・第7課の復習、第12課		明日は時間ありますか、ポイント1 勧誘表現
		4週	第8課・第9課復習、第12課		明日は時間ありますか、ポイント2 固有数詞、活用練習、応用表現
		5週	第10課の復習・第13課 何歳ですか		ポイント1 疑問詞
		6週	第13課 何歳ですか		ポイント2 自己紹介、活用練習、応用表現、11課～13課のまとめ
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明・復習		
	2ndQ	9週	第14課 コンサートに行きましたか		ポイント1 経験の表現
		10週	第14課 コンサートに行きましたか		ポイント2 否定形、活用練習、応用表現
		11週	第15課 どうやって行きますか		ポイント1 仮定・条件の表現
		12週	第15課 どうやって行きますか		ポイント2 助詞③、活用練習、応用表現
		13週	第16課 2人前ください		ポイント1 尊敬の表現
		14週	第16課 2人前ください		ポイント2 理由の表現、活用練習、応用表現、14課～16課のまとめ
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	第17課 トイレはどこですか		ポイント1 位置名詞
		2週	第17課 トイレはどこですか		ポイント2 企業名、活用練習、応用表現
		3週	まとめ		様々な発音の変化など
		4週	第1課 私は浅井ゆかりです		自己紹介
		5週	第1課 私は浅井ゆかりです		自己紹介
		6週	第2課 出身はソウルですか		出身を聞く
		7週	第2課 出身はソウルですか		出身を聞く、まとめ
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明・復習		
		10週	第3課 図書館ではありません		場所を聞く
		11週	第3課 図書館ではありません		場所を聞く
		12週	第4課 時間がありますか		時間の都合を聞く
		13週	第4課 時間がありますか		時間の都合を聞く
		14週	復習		
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前1
-------	------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	哲学		
科目基礎情報							
科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	なし						
担当教員	奥田 秀巳						
到達目標							
1. 哲学の基本的な問題の理解 2. 哲学の応用的な問題の理解 3. 「知る」「為す」「信じる」ということについての問題に挑戦することを通じた、「哲学する」ことの実践 4. 表現能力と共感能力の涵養							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	哲学の応用的な問題が理解できる	哲学の基本的な問題が理解できる	哲学の基本的な問題が理解できない				
評価項目2	「哲学する」ことの実践ができる	「哲学する」ことの実践がある程度できる	「哲学する」ことの実践ができない				
評価項目3	表現能力と共感能力を養える	表現能力と共感能力をある程度養える	表現能力と共感能力を養えない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	哲学者の思想を学ぶことを通じて、哲学の基礎概念を学ぶとともに、「哲学的に考える」姿勢を学ぶ。他者と共生する上で必要な己の表現能力および共感能力を養う						
授業の進め方・方法	講義 (適宜資料を配布する)						
注意点	哲学は、誰から「教わる」ものでもなく、自ら「考える」ことによって学ぶ学問です。ただ知識を詰め込むのではなく、自ら考えて学ぶ過程そのものが哲学なのです。時には周りの人と相談しながら、授業中に挙げられた問題について考えてみてください。皆さんが積極的に「哲学する」ことを期待します。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	哲学とは何か (1)	哲学を学ぶ意味を理解する			
		2週	哲学とは何か (2)	私たちの生活における哲学的思考の重要性を理解する			
		3週	私は何を知りうるか (1)	ソクラテスの「無知の知」を理解する			
		4週	私は何を知りうるか (2)	デカルトの「方法的懐疑」を理解する			
		5週	私は何を知りうるか (3)	ヒュームの認識論を理解する			
		6週	私は何を知りうるか (4)	カントの認識論を理解する			
		7週	中間試験				
	4thQ	8週	私は何をなすべきか (1)	カントの道徳哲学を理解する			
		9週	私は何をなすべきか (2)	功利主義の思想を理解する			
		10週	私は何をなすべきか (3)	アリストテレスの徳論を理解する			
		11週	私は何を望みうるか (1)	パスカルの「賭け」の考えを理解する			
		12週	私は何を望みうるか (2)	われわれの日常的な態度としての「信じる」態度を理解する			
		13週	私は何を望みうるか (3)	和辻哲郎の信頼論を理解する			
		14週	人間とは何か	これまでの学習をもとにして「人間とは何か」という問いに挑戦し、自らの考えを持つことができる			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	後3,後4,後5,後6	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	後10,後14	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	後13	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語・日本事情			
科目基礎情報								
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	_一般科目		対象学年	5				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	日本語能力試験問題集, 日本留学試験対策記述問題テーマ100, 留学生の日本語(論文読解編), 日本を話そう他							
担当教員	帖佐 幸樹							
到達目標								
1. 日本語能力試験のN1~N2程度の能力(読む・書く・聞く・話す)を身につける 2. 日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解を深める 3. 専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高める。 4. 一般的な小論文が書けるよう, 作文能力を伸ばす。 5. 文集「随想」の作成を通じて, 正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を養う。 6. 日本語能力試験受験を積極的に勧め, 合格へ導く。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 詳細に理解できる		日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解できる		日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解できない			
評価項目2	専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力をより高めることができる。		専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高めることができる		専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高めることができない			
評価項目3	正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を身につけることができる		正しく理論的な文章を書く力, 編集能力がある程度身につけることができる		正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を身につけることができない			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	一般的な日本語運用能力の習得, 向上, 更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学, 就職に必須な論文作成能力を養う。							
授業の進め方・方法	講義, レポート, 作文, 現地訪問							
注意点	特になし							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		2週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		3週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		4週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		5週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		6週	問題集例題を解く			日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解		
		7週	中間試験					
	2ndQ	8週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題		
		9週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題		
		10週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題		
		11週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題		
		12週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/公式問題集		
		13週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/公式問題集		
		14週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く			日本語能力試験問題集, 文法・聴解/模擬試験問題		
		15週	期末試験					
16週	答案返却・解答説明							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史, 交通・通信の発達から生じる地域間の経済, 文化, 政治, 社会問題を理解し, 技術者として, それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた, 経済的, 社会的, 環境的な進歩に貢献する資質を持ち, 将来技術者の役割, 責任と行動について考えることができる。			2	後16
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100	
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	